

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもり
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 6

JUN. 2009

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872/FAX 03-5367-1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

究極の「貧乏リッチ」

手間ひまかけて愚直に生きる

環境破壊が叫ばれて久しい。「では、個人のレベルでできることは?」「一度慣れた生活のレベルはおいそれとは落とせないし」。すぐに答えは出ないけれど、視点を変えることにより、生活にも変化をもたらします。そんなヒントの一つを紹介いたします。まずは雀部真理さん(大阪YWCA会員)のメッセージです。

「散々好きなこととしておいて辞めるか?」と職員仲間へのひんしゆくを買いつつ、大阪YWCAを辞して夫の故郷に移住した。兵庫東北部の出石町へ、2002年初頭のことであった。「いつか田舎に帰りたい」という夫のつぶやきに私が乗った形で、「どうせ移住するのなら、自然の中で子育てを」と、収入のあてもなく引越した。YWCA職員として「原発反対、生活の質を変えよう」「シンブルにエコライフ」などと言っても、大阪市内のマンション暮らしでは生ゴミを埋める土もない。夫が保育園のお迎えの日はずると残業し、深夜の大阪環状線の妙な混雑に身を置く不自然さ。これは何か違うという気持ちが高まっていった。夜は真っ暗、シカやイノシシが出没し、秋にはクマの声をのする山際の集落への華麗なる(?)転身である。

子どもたちはキラキラ輝いている。子どもたちの遊びっぷりはそれは見事で、ただの棒切れ・ただの古タオルで天才的に遊ぶ。大きい子が乳幼児を小脇に抱えて遊び回り、生き物やその生態にとても詳しい。年齢に応じた役割を誇りをもってこなし、伝令を命じられたら隣村まで走る。だが、同じフィジーでも首都スヴァには、すぐそこまで行くにもタクシーに乗り、コーラやスナック菓子や飲み、テレビやビデオに浸る子どもがいた。それまでも、「モノがあることが豊か」とは限らないとは思っていたが、フィジーの村の子どもに出会ったおかげで、「モノは少ない方が豊かに暮らせ、子どもは賢く育つ」と確信をもつに至ったのだ。

私は在職中の1991年秋から95年春にかけて、南太平洋の島国・フィジーで働く機会を得た。「日本の経済進出が太平洋の島国の人々に及ぼす影響」がテーマだったので、まずは元々の暮らしが知りたいと、離島の村生活を体験に行ったのだが、その豊かさには驚かされた。日本からの来客時など、ことある毎に村に通った町から遠い村では、電気・水道・ガス・電話はないのが普通で、家財道具もごくわずか、子どもの玩具もほとんど見かけない。モノの面では絶対的に貧しいが、食べ物はずこぶる美味しく、人々の気持ちに余裕がある。

出石に来て、親戚所有の古家跡に小さな家を建て、前の田んぼを畑にし、手作業でできる規模で有機野菜を作っている。玉ネギ・人参など年中ほしいものは購入もするが、他の野菜はほぼ自分の畑で近所・親戚からのおすそ分けで賄える。裏山のタケノコ、土手のフキやセリなど自生植物もふんだんに頂き、あるものをとことん食べれば、食費はごく少なくてすむ。いつの間にか50羽を越したニワトリは、食べきれない数の卵を産むので、手土産や「お返し」、畑の一部を借りる「年貢代わり」は卵。これで交際費は限りなくゼロに近づく。抗生物質フリーの自然な卵でプリンやケーキを作り、そば屋のだしがらで取る二番だしとで茶碗蒸しを作る。大きくなった雄鶏はシエフ中島(夫)の手で極上のから揚げやローストチキンに。鶏糞はもろろ畑の肥料、野菜くずや畑で捕った虫はトリのエサになる。



夕方小屋から出してもらったニワトリたち。

地元の豆腐屋さんからはおから、そば屋さんからはだしがらを引き取り、トリのエサ・犬のエサ・堆肥材料に活用。「燃やすゴミ」削減と栄養のダブル効果で、小さな地域内循環を実現している。そう、YWCA職員時代に物知り顔で語っていた「循環型社会」を、手の届く範囲で作っている。昨年来、わが家の食料自給率をさらに高めてくれた。



堆肥を仕込む筆者。材料は、豆腐屋さんのおから、そば屋さんの昆布、落葉菜、鶏糞、野菜くず等々。

いるのが、シカとイノシシ。地元猟友会の人「猟師の免許を取ってくれんか」と夫をリクルートに来られたのだが、「私もしたい」としやしゃり出て、まずはさばき方を教わったのだ。田畑を荒らす有害獣の駆除を行政から委託されているのだが、処理が面倒なため肉は廃棄している場合が多い。シカ肉は低脂肪高蛋白の優良食品。料理しやすい背肉や心臓などは人間用筋を取るの面倒な部位は犬用に、わが家にももらったシカはほぼ全身活用している。自分でわが仕掛けられるよう、近々狩猟免許を取る計画だ。

近年の私のテーマは、「手間ひまかけて愚直に生きる」。手間をかけないことが文化的と思ひ込み、機械や人工物に頼り、大量消費・大量廃棄に随従。すつかり地球を痛めつけてしまったのは、地球上のごく一部の金持ちの人間だ。手間をお金に換算することが、人間をみみっちく、自分勝手にしてしまったような気がする。フィジーの村人は、時給に換算することなく人のために時間と労力を使い、助け助けられることをあたり前に暮らしていた。「迷惑をかけるよりはお金をサービスを買う」日本人とどちらが豊かか。トリのエサ作り、シカさばき、野菜の掃除や調理、どれも手間がかかる。が、文句なく美味しい食事をお金をかけずにいただける幸せは何にも換えがたい。究極の貧乏リッチである。テレビがないので、つまらん番組に時間を費やすことはなく、余計なものをそぎ落とす暮らしていかばと思っている。そんな確信的異端者の両親を、娘たちはクールに見つめ、わが道を行きつつある。

都会で暮らす人には別世界の話と思われる。まずは地産地消に近くで取れたものを買うこと、電化製品の数を増やさず、ひと手間かける暮らしを志向されてはと勧めます。それが世界の仲間と共に生きていく第一歩になるのだから。 大阪YWCA 雀部真理

「ひろしまを考える旅2009」案内 3面掲載

YWCAが会員の 全国運動であることを 買きたい

柵 美津保

YWCAと私との関わりは1933年学校YWCAに始まったが、成人会員となつてからでも67年となる。その間私をこらえていたものは、目的に賛同して集まった会員の相互のつながりと、活動の展開によって導かれた他国のYWCA会員との交流と協働である。

特に、日本国憲法の、平和の理念の普遍性を世界YWCA総会に訴え、「ひろしまを考える旅」を通して、全国及び他国のYWCA会員と非戦への希求の念を共有した経験は、私の寄つて立つべき所を示してくれた。また、会員については、正準の別をはずしてすべての会員が選挙権と議決権を持つに至った議論に、日本YWCAの委員として加わり、他地域YWCA会員との交わりを深め、1973年の会則改正に関わったことは忘れられない。

YWCAの「A」(アソシエーション)は重要である。会員がクリスチャンであるかないかを問わず、特定の問題について意見を交わし、設定した目標のために団結して社会を動かす集団となり得るのである。それがYWCAが会員の運動であることである。

最近、公益法人新法への対応もあり、会員運動は転機にあると思う。会員は、自主的に組織されたグループに所属することによって、活動の中で相互作用によって、自らが変化し、成長する経験を得られる。そして、グループの目標達成の過程で、周囲の人たちをも巻き込んでいく運動に発展する。それが所属する地域YWCAのみならず全国的な運動となつて社会を動かしていく力となるのである。

かつてYWCAが先導的で、社会を動かす力があつたことの歴史的事実を認めて、現在私たちが社会を動かす力を持つた会員運動であるかどうかを考えてみたい。

今、委員会の存在が軽んじられていいると思つた。委員であることは、会員個人の成長の機会であり、委員会が会の目的を再確認する場である。キリスト教基盤に立った目的を持つYWCAが、平和を追求する運動として、独自の全国運動を展開していくことに、私も参加したいと思つている。

(東京YWCA会員)



資源を活かす

—リサイクルショップ、34年目です

■京都YWCA

京都YWCAでは毎月第1と第3土曜日、スリフトショップを開催しています。「スリフト」とは「節約・儉約」という意味で、もったいない精神をこころがけ、資源を生かす活動をしている。

スリフトショップは、1975年、まだ消費者の環境に対する意識が低い時代にスタートしました。当初はケーキやチーズなど外国の食品がメインで、リサイクルはほんのわずかでした。人々の意識を変えていくには大変な努力を要しましたが、お客様やスタッフと共に長く続けていくことで、徐々にその精神は広がっていき、最近では、参加者同士の交流もでき、毎回おなじみの方も多くいらつしやいます。

提供していただいた商品を一つひとつ仕分けをし、値札をつけ、開催日にあわせて整理をするのは大変な時間と労力を必要としますが、メンバー一人ひとりが強い目的意識を持ち、また楽しみながら準備をしています。

スリフトショップが開催される日は、同時にスリフトランチも提供しています。スリフトランチは毎回いろいろな活動委員やグループが担当し、500円というリーズナブルな料金で、定食を提供しています。

年に2回のバザーでは、日頃から厳選して商品を集めた特選品コーナーを設営したり、お中元やお歳暮の品で不要な新品の寄付を募り、安く提供しています。手作りの品やアクセサリー、サリィを作った販売し、大好評の手作りケーキは一瞬で完売してしまいうこともあります。ランチも普段のスリフトランチとは一味違った、世界の料理も提供しています。



安定しています。不景気な今だからこそ必要な活動ではないかと思えます。またスリフトショップの多くのメンバーは、20年以上YWCAで活動続けている経験豊かな方々が多く、体的に大変な部分はありませんが、この活動が心のよりどころとなっているメンバーも多く見られます。これらのことからスリフトショップを通して社会の重要な部分を担っていく大切なものがあるのがこの場所だと自覚しています。

昨年より京都市役所前のフリーマーケットにも出店する試みも実施し、より広く活動を知ってもらうための努力も続けています。今後もリサイクル・リユース・リデュースの精神を伝え広め、時代に合った活動を模索しつつ活動を継続していきけるように、みんなで努力していきたいと思っています。

京都YWCA 小栗弘美

フェアトレードには「ストーリー」がある

■札幌YWCA



「活動と出会いの場所」としてY's Cafeがオープンしたのは、今からちょうど5年前。開店当時のメニューは、自慢の手作りカレーにケーキ、有機栽培の

コーヒー・紅茶とわずか数種類で、その紅茶がフェアトレード団体「わかちあいプロジェクト」のものでした。その後、徐々にメニューも充実し、パレ

フェアトレードの商品には、「ストーリー」があります。女性や織物や手工芸品を売り現金収入を得ることで、人身売買の被害に遭わずにすむ、カカオの適正取引で、子どもたちが農園で危険な労働をする代わりに学校に通える。商品を買うことで、私たち消費者もその物語の登場人物の一人として、グローバルな助け合いの輪に加わることができるとのことです。

スチナ産オリブオイルやフィリピンのマスコバド糖・チョコレート等、フェアトレード商品の扱ひも増えました。現在は、店でお出するコーヒーにも東ティモール「マウベシ珈琲」を使用し、独自のルートで仕入れたタイの織物やパレスチナの小物など写真下にも販売しています。

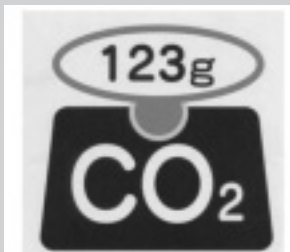
このフェアトレードをより多くの人に広めたいと、初夏の大通公園で開催される「フェアトレードフェスタ」にY's Cafeも毎年出展しています。今年も、他のフェアトレード団体・市民、そしてお手伝いに来てくださる高校YWCA部の皆さんとの出会いと交流を楽しみにしています。

札幌YWCA 吉田亜希



知ってる？

CO₂排出量分かる商品販売間近



このマークをご存知ですか？これは「カーボンフットプリント」マークです。「カーボンフットプリント」とは、直訳すれば「炭素の足跡」、商品の原材料調達から廃棄・リサイクルまでの過程で排出される二酸化炭素(CO₂)の量を示しています。

「カーボンフットプリント」の導入は、地球温暖化対策の一環として、消費者がCO₂排出量の少ない商品を選ぶようにし、事業者にはCO₂を減らす努力を促すことを目的としており、日本では昨年6月に経済産業省が導入に向けたルールの検討を始め、今夏にもマークを付けた商品が店頭に出回る見通しです。基本ルールは、京都議定書で排出削減の対象となる6種類のガスをCO₂に換算し、排

出量を示した共通マークを商品に添付。共通マークは、秤でCO₂の排出量を量っているデザインで、皿部分に排出量が表示されます。

商品の製造過程における環境負荷といった、本来見えないものを数値で「見える化」(可視化)する動きは世界的に広がっており、カーボンフットプリント制度の取り組みは、イギリスなどで07年から始まりました。数値の算定の国際的なルール作り、また消費者の認知度を上げる、参加企業をどれだけ増やせるか、などが今後の課題です。

こうした新しい制度が実効性を持つものとなるように、消費者としては、政府のパブリックコメント募集の際などに積極的に声を上げていくことが大切です。

(編集委員会)

六ヶ所村からやってきた チューリップの球根



チューリップとの出会いは、東京の日比谷公園で昨春秋に行われた「種まき大作戦2008

土と平和の祭典」というイベントがきっかけでした。公園内に立ち並ぶブスでは、食の安全にこだわった農家さんが自慢の作物を販売するほか、フェアトレード商品や手作り雑貨などが販売され、一見よくある野外フェスティバルと変わらぬのですが、いくつかの点が異なります。一つは、イベントそのものを「平和」をキーワードに集まったミュージシャンたちが主導していたこと。芝生が一面に広がった公園中央の野外ステージで歌い、平和のメッセージをトクするミュージシャンの中には、昨年5月の9条世界会議のステージにも登場した、FUNKISTや加藤登紀子さんもいました。そしてもう一つは「食と生活」という誰でも繰り返す日常と、形の見えづらいう「平和」をトクキングさせるという試みでした。

公園の敷地に広がったブスの間をのろのろしていると、色鮮やかな野菜の店に囲まれて、茶色一色の球根ばかりが並んでいる店が一つ。「花とハーブの里」の出店でした。ちょうど、東京の小さなペランダで、プラント園芸でも始めようと思っていた矢先だったので、球根をみるや「これだ！」と熱い思いに駆られました。「簡単に育てられますか？」「土に植えるのはいつ頃ですか？」「水やりは？」「冬の霜対策は？」…私の質問攻めに「いいえに答えながら、店員さんはこの球根は六ヶ所村から来たと言いました。『そうか…種まき大作戦と平和の祭典』ってこういうことか」と、六ヶ所村からやってきた球根を手にして納得しました。冬を越して春に無事花を咲かせられれば、形の見えづらいう「平和」を一つ形にできたことになる、そういう思いで、店員さんに教えられた通りに球根を土に植え、水をやり、4月4日、ついに花が咲きました。

購入した「混合」と書かれた球根パックは、異なる種類の球根5つ入りで、花が咲いて初めて、どんな顔をしたチューリップなのかかわかります。それぞれに違った顔のチューリップが育つのを待っていると、平和を表現したり、形にする方法も、人それぞれでいいんだな、という安心感と自信に満たされます。水をやってチューリップを育てるといって日常のこと、

「核」の無い六ヶ所村の実現に思いを馳せることにつながり、「核」汚染のない野菜を農家さんが作るようにという折りと支援になり、「このチューリップ、かわいいでしょ。六ヶ所村から来たんだ」という話から「六ヶ所村？」と言う友だちへ実態を伝えるきっかけになったり…と、さまざまな平和の形に変化します。きっと、子どものいる家庭や幼稚園だったら、六ヶ所村のチューリップを育てることが、命という視点からかなり意味のある教育になると思っています。

沖縄YWCA 根岸朋子
沖縄YWCA ニュースレター「うーまん世」28号より抜粋

*青森県六ヶ所村は、1986年に核燃料サイクル施設が誘致され、今ではウラン濃縮工場が稼働し、日本各地の原発から排出された低レベル核廃棄物・高レベル核廃棄物・使用済み核燃料が送り込まれ、核の集積地となっている。

「ひろしまを考える旅2009」ご案内

テーマ：HIBAKUSHA～ヒロシマから世界のヒバクシャへ～

期間：2009年8月14日（金）～16日（日）（2泊3日）

※オプション参加の場合は3泊4日。17日朝チェックアウト。

※現地集合・解散

会場・宿泊：広島市国際青年会館（アステールプラザ）

プログラム：

- ・スティーブン・リーパーさん（財団法人広島平和文化センター理事長）のお話
- ・平和資料館見学
- ・フィールドワーク4コース・被爆証言（①岡ヨシエさんに当時をうかがう ②比治山 ③被爆した十字架と復興 ④文学から考えるひろしま）
- ・平和を創るワークショップ
- ・碑めぐり

オプション：①世界遺産一宮島を楽しむ ②岩国を訪ねる（参加費別途3000円）

費用：●中学・高校生	2泊3日	18,500円
オプション参加	3泊4日	26,500円
●大学生・大学院生	2泊3日	20,500円
オプション参加	3泊4日	30,000円
●一般	2泊3日	23,500円
オプション参加	3泊4日	33,500円

申込締切：一次6月30日（火） 二次7月15日（水）

問合せ・申し込み：日本YWCA（担当 仁田・根岸）

Tel：03-5367-1872 FAX：03-5367-1873

Email：office-japan@ywca.or.jp

★学生ボランティア、インターン制度があります。

詳しくはホームページをご覧ください。www.ywca.or.jp



昨年度の旅にて



友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしが命じることを行なうならば、あなたがたはわたしの友である。（ヨハネによる福音書15章13、14節）

神学校を卒業した20代半ばの私は、招聘してくれる教会もなく、母校のすぐ近くで新規伝道集会を始めました。その集会には友人たちが来ましたが、また、前任地のすぐ近くに、母教会で共に神学生時代を過ごした親友がいて、お互いにどんなに忙しくても時間を作って会って忌憚なく話し合うことができました。そういう恵まれた土地から遠く離れて暮らすことになって1年、改めて身近に友のいることの大切さを実感しています。そのせいか、イエスも心から友と呼べる友が欲しかったらうなと、この言葉を読んで感じています。イエスは弟子たちに「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と命じています。そして、あなたがたが「それを行なうならば、わたしの友である」と言っています。

「わたしがあなたがたを愛したように」を「わたしがあなたがたを愛しているから」と解釈し、私たちが互いに大切にしようとするところにイエスは共にいてその関りを喜び祝われます。やはり、すぐ傍に、志を同じくして、困難なことにも励ましあって共に取り組める人たちがいることは大事です。今、YWCAの仲間、私にとってそういう友です。

久保礼子（日本キリスト教団那覇中央教会牧師・沖縄YWCA会員）

「ひろしまを考える旅」 やってみました！ インターン



毎年8月に開催される「ひろしまを考える旅」に、一昨年インターンとして参加した樋口さやかさん（福岡YWCA会員）に、その経験について伺いました。

●YWCAのインターンをやってみようと思ったきっかけは？

「ひろしまを考える旅」には、私が中学生のときに参加したことがあり、いつかまた参加したいなと思っていました。そこで、大学生になり、参加しようとYWCAのホームページを見たら、参加者とは別にインターンを募集していたのが直接のきっかけです。

●インターンってどんなことをするの？

主にプログラムを行うために必要な事前、またプログラム中の事務的なサポートが仕事でした。具体的には6月の中ごろから事務所に週3日ほど行き、旅の参加者の応募を受け付け、名簿

を作っていくというところは好き

だったので、楽しそうだなというのと、参加者として受身で参加するのではなく、プログラムをつくる側として参加することで、この旅で別のものが見えるチャンスではないかと思いつきました。また、せっかくの夏休みをバイトや友達と遊ぶだけ過ごすしてしまってももったいないなと思ったことも、実は理由のひとつです。

また、ボランティアの人たちで構成される「ひろしまを考える旅」実行委員会が月に1回ほど開かれるので、それに参加しプログラムの構成をボランティアの委員の方々と打ち合わせ決定するというのも良かったです。

実際の8月の旅本番では、参加者への全体連絡を行ったり、フィールドワークの引率を行ったり、プログラムで必要な荷物を運ぶなどの仕事をしました。さらに、私のときは、中国と韓国から来る海外ゲストを広島空港まで迎えに行くということも

を作ったり、部屋分け、グループ分けの手伝いをしたり、旅のしおりである参加ノートを作ったりしました。

また、ボランティアの人たちで構成される「ひろしまを考える旅」実行委員会が月に1回ほど開かれるので、それに参加しプログラムの構成をボランティアの委員の方々と打ち合わせ決定するというのも良かったです。

実際に8月の旅本番では、参加者への全体連絡を行ったり、フィールドワークの引率を行ったり、プログラムで必要な荷物を運ぶなどの仕事をしました。さらに、私のときは、中国と韓国から来る海外ゲストを広島空港まで迎えに行くということも

生という立場では本来知ることのできない、働くこととはどういうことかということも知れたことや、プリンターやコピー機またパソコンの使い方がうまくなれたということも私にとってはインターンに参加したからこそ得ることのできたことだと思っています。もちろん、残業みたいな夜遅くや休日まで作業が続いたり、せっかくなので進めたことが、後から変更となり一からやり直しになったり、旅本番中は体力的にギリギリまでなるので大変だなと思うこともありましたが、しかし、旅が成功し、インターンが終わった後の達成感は何にもかえることのできないもので、本当にやってみようと思った

私は今、実行委員として「ひろしまを考える旅」に関わっています。今年も8月14日から行きます。ぜひとも、今年は一緒に「ひろしま」で、「原爆」「核」「命」そして「平和」について考えてみませんか！

（中高YWCAだより「わーいだよ！」09・4・25号より抜粋）

公益法人新法に対応して その1

2006年5月に公益法人制度改革関連3法が成立し、6月に公布されました。次に2007年4月に公益認定等委員会が発足し、9月に閣内閣府令が公布され、2008年4月には公益認定等ガイドラインが出されました。公益法人制度改革に対応する税制改正に係る法律も成立しました。同じく12月に公益法人新法が施行されました。そのことにより日本YWCAはいままでの公益法人（財団法人）から特例民法法人になったわけです。特例民法法人は5年以内（2013年11月末まで）に公益財団法人か一般財団法人かのいずれかを選択しなければなりません。そのための検討が必要です。

以前は民法34条を根拠として主務官庁による「設立許可及び指導監督基準」により設立・監督されていた法人が、準則主義による法律に則って成立するという変化が、この公益法人制度改革の基本です。その流れに呼応して、理事会の下に置かれた「公益法人制度改革に対応する部会」は内容を検討しながら、さまざまな提案を常任委員会に出し、協議を重ねています。

2006年全国総会では次のことを決議しました。

- ①日本YWCAは公益財団法人認定をめざす方針。
- ②必要な寄附行為の変更に関しては理事会及び中央委員会に付託する。
- 2) 寄附行為変更に伴う会則上の団体名称の不整合に関し日本YWCA会則改正まで移行期間を設ける。移行期間は第30回全国総会までとする。

この決議に従い、2007年の中央委員会では、寄附行為の一部変更（「財団法人日本YWCA」への名称変更と評議員会の設置）を決議し、すぐに主務官庁である文部科学省文化庁宗務課に申請をし、1年後の2008年6月12日に許可があり、6月25日登記をすませました。

2008年の中央委員会では機関設計案を提示し、意思決定の流れを示し、定款案の説明等を行いました。

一方、財団法人格を持つ8地域YWCAとは合同会議・実務者会議を持ち、全国幹事会・総幹事会でも情報交換・課題の共有をしてきました。また、日本YWCAを構成する各地域YWCAについても会則の整備等と呼びかけ、コミュニケーションをとってきました。しかし、今日までの間に状況がかなり変化してきており、新たに考えなければならないことが次々に出てきたため、部会でもさらに検討を進めているところです。（公益法人制度改革に対応する部会 中村紀子）

*このシリーズは、今月号より4回にわたり連載します。



My Story Her Story



私が福岡YWCAと関わりを持ったのは9年前で、大学1年生の時だった。当時から国際交流に興味があり、アジア雑貨のフェアトレードショップのお手伝いをしないかと誘われたのがきっかけで、色々なイベントに顔を出すようになった。積極的に関わるようになったのは2年半前で、若いメンバーが集まって活動するユースグループが企画した「ちゃちゃっと料理教室」に参加したのがきっかけだった。ユースメンバーに出会って最初に感じたことは、とにかくみんな、何かに対して熱い想いを持っているということだった。初めは単純にそれに驚き、同時に何にも夢中になれていない自分にショックを受けた。自己紹介の時、私には「これをやっています」と言えることがなかった。

そこでまずはユースグループの一員と

なり、自分たちで企画を立て実行したり、勉強会をして、自分の世界を広げていくことから始めた。そうして私の生き方が変わっていった。元々、人前で話すのは苦手だったが、有り難いことに、司会をさせてもらう機会や、自分が主体となって何かを人前で披露する機会などをたくさん与えてもらったので、自分に自信をつけることができた。また、人脈が増えたことも貴重な財産となっている。普通の生活をしていても知り合えなかっただろう方々と交流でき、色々な視点から物事を捉えられるようになった。

YWCAを通じて出会った人は皆、活動的で生き生きしている。人のために一生懸命で、胸に熱い想いを持っている。私も負けずに熱い想いをもち、原動力にして、YWCAに関わっていきたいと思う。

福岡YWCA 牧山友美

AROUND THE GLOBE 今、地球上で

南太平洋・フィジー諸島共和国の 状況とYWCA

06年12月、民主的に選ばれた政府からフィジー軍司令官が行政権を奪取した。87年から数えて4度めの軍事クーデターである。「政治家の腐敗・汚職を一掃するクリーンアップ作戦」との主張を、伝統的な首長（チーフ）でもあるイロイロ大統領が追認し、暫定軍事政権が発足。バイニラマ司令官が暫定首相に着任した。周辺国で構成する太平洋島嶼諸国フォーラムなど国際社会はこれを非難し、一刻も早い総選挙の実施と民主的統治への復帰を求めている。「軍事政権を認めたのは憲法違反」と前首相側が訴えたのに対し、今年4月8日控訴裁判所が画期的な「違憲」判決を下したが、大統領は翌日憲法を破棄し、裁判官全員を罷免するという暴挙に出た。同時に09年実施をフォーラム諸国に約束していた総選挙を14年まで引き伸ばし、とうとうフォーラムからも資格停止され、孤立を深めている。さらに、緊急事態令を強化して政府に批判的な言論の封じ込めを合法化。放送局も新聞社も民衆組織も報道内容の事前チェックの対象となり、複数の外国人編集長が「批判的報道」の嫌疑で国外退去処分になっている。

フィジー YWCAは、「非核独立太平洋運動」（仏領ポリネシアにおけるフランスの核実験への抗議に端を発する）をはじめとして、60年代から精力的に活動してきた。財政の逼迫とリーダーシップの危機により数年間活動を休止していたが、軍事政権下の人権状況を憂う女性たちにより、活動再開。今年1月には、イスラエルのガザ侵攻に際しての世界YWCAの呼びかけに応え、平和集会を開催した。パレスチナの、世界中の、そして自国の平和と女性・子どもの尊厳のため、首都スヴァ中心部の教会に女性たちが集まった。この「スヴァ平和集会」は、2000年のクーデター（3度め）の後、平和を願う女性たちが始めた組織を超えた行動を受け継ぐもので、今も毎週木曜日の昼に行われているという。

度重なるクーデターで民主主義の根幹が揺らぎ、意見の違いを力で解決する「クーデター文化」に人々の心が侵されていくことが心配されている。話し合いによってちがいを克服する真の平和と民主主義の実現が、YWCAを含むNGOの願いであり、使命である。フィジー YWCAのレンバ・マタイティニ会長は、「今のフィジーの若者は、不安定な政治状況の中で育ってきた。平和で民主的な統治が可能だという考えを、若者に届ける必要がある」と言う。各国YWCAには、自国政府を通じた軍事政権への圧力が求められている。



*世界YWCAホームページ (<http://www.worldywca.org/>) に、フィジー YWCAのリーダーたちからの呼びかけが掲載されています。

(世界YWCAホームページ、外務省ホームページ および
ハワイ大学「太平洋島嶼国レポート」の記事より、編集部が構成)

子育て支援 「スペースJOY」 スタートしました



子どもにとって良いことは何でもやろう！が、私たち「チャイルドプラス」の名前の由来です。昨年10月より、平塚 YWCAの子育て支援を担当させていただいています。

0歳から3歳までの親子を対象に、ムーブメント教育・セラ

ピーを取り入れた楽しい教室です。ムーブメントとは、身近な遊具（パラシュート・スカーフ・カラーロープ・風船等）を使い、ファンタジックな環境の中で、ピアノの生演奏や歌にのせて運動します。音楽を体感するだけでなく、動きをコント

ロールする能力や、創造力・社会性を養い、心・体・頭の調和がとれた発達を促します。内容は他に、パネルシアター・リトミック・子育てレッスン・ストレッチャや交流などがあります。

母親の学びの時間「子育てレッスン」も好評です。母親に子どもとどう関わればよいかを具体的に伝えています。「我が子を愛する方法」が分かることで不安が解消されて子どもとの関係がよくなっています。同時に子育て仲間も出来、孤立を防ぐことが出来ます。

人との関係が希薄になった今、安心して集い、親子で楽しむ時間を持つことは、とても大切です。子育て経験者や子育て仲間と繋がることは必須です。子育て支援は、「人と人を繋げていく役割」を担っています。親の気持ちに寄り添いながら、親子ともに温かいまなざしを向けられるように。子どもの気持ちを代弁しながら、親と子どもの関係

を繋げ、そして親同士の関係を繋げる。私たちを含め、親も子ども、人との繋がりの中で互いに支えられ育てられています。会員もボランティアとして参加し、「温かな交流の場」になっていることは大きな力です。

だれもが、自らの力を活かし、安心して「自分育ち」が出来る場「スペースJOY」。子育て支援をさせていただけることに感謝しています。

平塚 YWCA 佐瀬葉子

- ご協力ありがとうございます
賛助費（以下敬称略）
- 川端国世 水上伸子 三股まさ子
 - 小川郁子 岡野美和子 武内富貴代
 - 佐竹美美子
 - 世界YWCA賛助費 川端国世
 - 平和教育賞金
 - 武内富貴代
 - ファンドレイジング委員会（プラダン・コチ チェロコンサート）
 - オリープの木暮金
 - 笹原一郎 笹原秀子 笹原千春
 - 笹原正一 笹原とも子 前川梨子
 - 番 肇 番あゆ美 重松池畑
 - 首藤和子 三股まさ子
 - Rachel smile Box 函館 YWCA
 - 国際協力募金
 - 日本キリスト教団能勢口教会
 - 国際協力募金「ガザの女性と子ども支援」
 - 北村和子 五十嵐和子 沖田裕子
 - 斉藤道彦 玉城李影子
 - 日本キリスト教団南浦和教会
 - 日本キリスト教団加古川東教会
 - 東京 YWCA 神戸 YWCA
 - 京都 YWCA 長崎 YWCA
 - 東京 YWCA 武蔵野センター
 - 浜松 YWCA 名古屋 YWCA
 - 大阪 YWCA 札幌 YWCA
 - 函館 YWCA 平塚 YWCA
 - パレスチナ YWCA 支援募金
 - 京都 YWCA ブックラ
 - 国際協力募金「相互援助」
 - 神戸 YWCA 横浜 YWCA
 - 東京 YWCA
 - クリスマス献金
 - 東洋英和女学院中高阶宗教委員会
 - 日本基督教団経堂北教会
 - 一般寄付
 - 鶴崎祥子 保野尚子 久保田加津子
 - 武内富貴代 川口みゆき
 - 横山由美子 カナンのパン
 - ファンドレイジング委員会（プラダン・コチ チェロコンサート）
- （2009年4月20日現在）